

2025年が明けました。みなさん、今年の豊富は？  
今月号にはもう一度、河毛先生の講評を掲載します。

TOPICS

今月の練習予定

寒い時の楽器の扱い方

#の増える順番

# GENERAL PAUSE

## 今月の練習予定

1月の練習予定です。（施設が使えることを前提としたスケジュールです。）

月	練習日	合奏の時間	曲目
1	9	19:00～	合奏
	16	19:00～	合奏と総会
	23	19:00～	合奏
	30	19:00～	合奏
2	6	19:00～	合奏
	13	19:00～	合奏

1月16日の練習時に総会も行います。

### 練習曲一覧

スペイン組曲 op.165 より「タンゴ」（Isaac Albeniz 明石出版）  
憧れの街（南俊明）、Ode and Jubilation!（Gerald Sebesky）、Rhapsodic Episode（Charles Carter）、無敵の鷲（スーザ）、トトロメドレー（夏祭り積み残し）、ケセラセラ（ウインズスコア）、風になりたい（ウインズスコア）、レイダースマーチ（バンドジャーナル）、ビューティフルスマイル（ウインズスコア）

公民館サークル祭りは、7月27日（日）の予定です。

## 冬の楽器の扱い方

実は、音の祭典の直前の10月末のことです。自宅で個人練習をしていた筆者はうっかりと自分の楽器を倒してしまいました。「修理が間に合わなければ、新しい楽器を購入することも考えなければならないか？」と考えながら、慌てて数軒の楽器屋に相談に行くという事態に。購入した楽器屋さんにも緊急のリペア枠があり、なんとか応急処置をしてもらいなんとかなりました。そんな経験から、冬の楽器の扱い方を教えてもらいました。

冬場に注意すること。

…と言っても皆様ご存知だとは思いますが。

クラリネットやピッコロ等は、急激な温度変化に気をつけましょう。

気づかないうちにヒビが入ってしまう可能性があります。

フルートやサクソも、手やクロスなどでじわじわ温めてあげてから、息を入れて温めることをオススメします。

金管楽器は冬場、夏場に関係なくグリスの塗り直しとオイルを注すことを2週間に1回は行いましょう。

マウスピースも冷えた状態で唇に当てるのはあまり良くないです。

木管楽器と同じく、手で温めてから楽器に付けて息を入れて温めることをオススメします。

購入店舗などで定期メンテナンス(半年～1年)もしっかり行いましょう。

## シャープがつく順番

筆者も転調についていくのが苦手な方なのですが、実は#や♭が付くには順番というものがあります。

長音階 (Dur)の場合、なにもついていないC-Durからはじまります。#がひとつ増えるごとに、G-dur→D-Dur→A-Dur→E-Dur→H-Dur→Fis-Durの順番で調が変わります。

そして、#の増え方は、下の図の#1、#2のようにF→C→G→D→A→E→H(実音)の順番に#が増えていきます。

♭は#の反対が増えてきます。調はF-Dur→B-Dur→Es-Dur→As-Dur→Des-Dur→Ges-Durで変わります。

#や♭の増える順番は、もちろんB管でもEs管でも順番は同じなので、まずは#が増える順番を覚えておくといいかと思えます。



## 音の祭典 河毛先生の講評

河毛先生の講評を再掲載します。

今年も大変お世話になりありがとうございました！

今年もまたみなさんにお会いできてとても嬉しく思っておりました。

昨年よりも曲の難易度も上がり、これはまた合わせるのが大変だなと感じましたが、みなさん最後まで練習をしっかりとされて、難しいリズムやパッセージもかなり合わせられるところまできて本番に臨めたのではないのでしょうか？

人数が多くなってやりやすくなった部分と、逆に合わせにくく(どのパートを聴きながら演奏するかわからなく) なった部分があったかと思います。

課題としては、リズムの難しい部分のアーティキュレーションの共有、テンポ(ビート)の共有と安定が出来ると良いですね。

あと場面場面での音色の変化がついていくとさらに表情豊かになると思います。

アンサンブルをしていく中で、なかなか日頃この大所帯で演奏することができず、音を混ぜると言う感覚がないかもしれませんが、この楽器とこの楽器の音色を混ぜるとこんな音がすると感覚で捉えて音色作りをしたいです。

リズムについて、トロンボーンの譜面ではほぼ見たことがない64分音符というものが木管に出て来たりしていました。16分音符の中に音を4つ入れる・・・頭では理解できてもなかなか演奏は容易ではありません。

でも、雰囲気だけで演奏をしないように、やはり小節の中でリズムを分解して、理解してから音を出す必要があります。休符も同じです。休符を待って音楽に乗るためには、休符分も正しく数え、音の鳴る瞬間の時間を計算し理解して音を乗せる必要があります。

乗り遅れまたは早く入りすぎるといことのないように、リズムは細かく細かくカウントする訓練をしておくことが大事だと思います。

この譜面を理解して音を出すという部分にも少し課題があるなと思いました。

リズム、フレーズ、指、音程、音色、音形、ハーモニーと考えることはいっぱいあります。常に頭フル回転で考えながら練習をしておき、本番で脳みそ空っぽになっても音に集中できてアンサンブルができる状態になっていると心が強いです。

あと、今回難しいと感じたもう一つが、「間」の取り方、呼吸の合わせ方です。その「間」やその拍で「時間」が欲しいところに突っ込んでいってしまう人がいるかもしれない、という理由から突っ込まざるを得ないというところが出てきてしまいます。私の拙い棒では表現しきれず申し訳ない部分もありました。

空気感を読み、空気感を発するというところのアンサンブルもできるバンドだと思います。これは計算やルールを作ってもできない部分で、音楽の楽しい部分なので、どんどん空気読んで演奏してってください！

これからの練習では意識をして練習することもだいじかと思います。

## 編集後記

今月は紙面が長くなってしまいましたので、お休みします。<了>